

## 会 議 録

1 会議名	第1回 南砺市子ども読書活動推進計画策定会議
2 議題	(1) 開会のあいさつ (2) 委嘱書交付 (3) 委員長・副委員長の互選について (4) 委員長あいさつ (5) 南砺市子ども読書活動推進計画(第3次)について (6) 今後のスケジュールについて (7) 閉会のあいさつ
3 開催日時	平成28年9月27日(火) 午後1時30分から午後3時05分
4 開催場所	南砺市役所井波庁舎 3階 301会議室
5 会議出席者	南砺市子ども読書活動推進計画(第3次)策定会議 出席10人/全10人 委 員：影近義明、広橋里志、城寶マチエ、福田祥子、武田和一、正平浩美、田中かず代、川田真紀、豊川覚、竹谷弘之 事 務 局：生涯学習スポーツ課長、生涯学習係長、中央図書館主査 生涯学習係主事
6 欠席者	事務局2名(図書館副主幹)
7 傍聴者	無し
8 議事内容	開会 工藤生涯学習スポーツ課長 (1) 開会あいさつ 高田教育長あいさつ (2) 委嘱書交付 ・机の上にて交付 ・各委員、事務局自己紹介 (3) 委員長・副委員長の互選について 委 員：図書館協議会会長の武田和一さんをお願いしたい。 ・拍手にて全員一致で決定。 委 員 長：副委員長は教育部長豊川さんをお願いしたい。 ・拍手にて全員一致で決定。 (4) 委員長あいさつ 進 行：委員長 (5) 南砺市子ども読書活動推進計画(第3次)について 事 務 局：(資料に沿って説明) ●質疑応答 委 員：読書活動とは手に取って読むものなのか、電子書籍は含まれないのか。また、資料にあるデータの数字は、どちらも含まれているのか。 事 務 局：電子書籍は含まれず、手に取って読むものを読書活動としており、

データの数字は、手に取って読むものだけの数字を出している。

委員：全国的に電子書籍で本を読む方は増えている。南砺市の図書館から出してあるさまざまなデータは、電子書籍の分は含まれていない状況である。

委員長：この第3次策定においては、電子書籍は含まないということではあるが、将来的には考えていく必要がある。

委員：資料の中の学校図書館図書標準の達成状況データは何を基準に達成としているのか。

副委員長：文部科学省の中に学校図書館図書標準があり、その中に計算式が掲載されており学級数に応じて定められている。例えば小学校の場合だと3～6学級の場合は3千冊+520×(学級数-2)となっている。

委員：南砺市より発行されている図書館利用カードの利用はどのくらいあるのか。

委員：27年度のデータによると南砺市内6歳～11歳までの子どもで図書館を利用した子どもは約68%いた。初回発行年度より約11%伸びており、図書館利用カードを子どもたちにプレゼントし続けている事で非常に成果が出ている。しかし、中学生になると約半分になる。全体的においては南砺市の子どもたちは図書館を利用する割合が高いのではないかと考えている。

委員：図書館利用カードの配布は、兄弟姉妹で図書館を利用しやすくなる取り組みであり、非常にありがたいことである。

委員：兄弟姉妹での利用者は非常に多い。また最近では父親が連れてくることも多く、良い傾向ではないかと思う。

事務局：(具体的方策案 p.1～p.3 を資料に沿って説明)  
※それ以降の資料説明については次回委員会まで各自で目を通して頂くようお願いした。

●質疑応答

委員：この計画案は平成25年に国で閣議決定されたものを反映させているか。

事務局：ある程度反映させている。

副委員長：第2次と第3次の主な違い、特色は何か。

事務局：国や県や市において共通した課題は、高学年になるにつれて読書量が減少していることであるため、その項目を強調しているところ

	<p>ろである。南砺市もそのことは非常に懸念している。</p> <p>副委員長：南砺市独自の特色はどのようなものがあるのか。他市より進んでいることもあるのでそれも盛り込んでいったら良いのではないか。</p> <p>事務局：南砺市の図書館は他市に比べ季節のイベントが多い。南砺市の特色を p.4 以降に盛り込んではあるが、今後まだ計画案見直が必要であると思う。</p> <p>委員：城端小学校でも図書館利用カードは、ほとんどの子どもが持っている。もっと図書館利用カードの良いところを PR していったほうがよいのではないか。</p> <p>委員長：計画案の中で、文章だけではなく写真やデータ、グラフを用いて人の目を引くような工夫をしたら良いのではないか。</p> <p>委員：第2次の具体的方策の中では、参考資料として最後のページに全部グラフなどを載せていた。第3次では見やすくする様に途中でグラフ等を盛り込んでいく工夫も必要ではないか。また事務局のほうで検討して頂きたい。</p> <p>委員：第2次の成果と第3次の課題も計画に盛り込んだほうが良いのではないか。特に南砺市独自の取り組みは盛り込んだ方が良い。</p> <p>副委員長：冒頭に入れると第2次と第3次の違いが分かりやすくして良い。</p> <p>委員：学校内で行っている読書活動では、低学年は取り組みが盛んではあるが高学年になるにつれて少なくなっている。高学年が読書を嫌いになったわけではなく、読書に費やせる時間が少なくなっているのも原因であると思う。高学年に対する取り組み方も、今後検討が必要ではないか。</p> <p>委員：読書においては、読んだ冊数も大切ではあるが、質も大切であると思う。また他図書館との情報共有も大切ではないか。昔は情報共有のできる会議に参加していたが、現在はどうか。</p> <p>事務局：今年度、司書教諭連携会議を計画中である。</p> <p>委員：また各学校との間でデータベース化されていないのが非常に不便である。</p> <p>事務局：以前よりから学校と公立図書館をつなぎたい思いはあるがなかなか実現できないのが現状である。</p> <p>委員：これからの時代、ネットワークで繋がる事が非常に大切である。</p> <p>委員長：その件については、図書館協議会でも協議していきたい。</p> <p>委員：先日、図書館に整理券をもらいに行く子どもを見かけたが、どん</p>
--	---

な取り組みを行っているのか。

委員：市内小学校の夏休みを利用し、小学生を対象とした「読書感想文の書き方」や「手作り絵本教室」などの企画をしている。  
毎年大変人気であるため、保護者の都合に合わせて今年度より初めて整理券配布という形をとった。

委員：学校の方では、バーコードによる蔵書管理は考えていないのか。

委員：昔、作業を経験したことがあるが、お金より人手が懸かった記憶がある。

委員：毎年、城端小学校では年度末に100冊近くの紛失図書がある。  
ぜひデータベース化して頂きたい。

委員：計画案を見ていると第2次から進歩されている部分もたくさん見受けられる。

委員：第2次と第3次の計画案の資料を見比べていると、同じ様な文章が並べられているような気もする。あまり変化するものでもないが、少し検討が必要ではないか。

委員：今年度、城端小学校は子どもの読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受けた。非常にありがたいことである。豊かな心を育む読書活動の推進を、これからも親御さんを巻き込んで継続して実践していきたい。

委員長：中学生に読書を勧める方法は何かないか。

委員：朝読書を取り入れる学校が増えてきた。強制的ではあるが、取り入れることによって学校が落ち着いてきたという話も出ている。

(6) 今後のスケジュールについて

事務局：(資料に沿って説明)

第2回南砺市子ども読書活動推進計画策定会議

11月4日(金) 13:30～ 井波庁舎3階 301会議室にて

(7) 閉会のあいさつ 副委員長